

令和4(2022)年「正覚寺報」6月号

お知らせ

五月の衆議院予算委員会の中でお医者さんでもある議員さんから、新型コロナは、いまや致死率で見て「やや質の悪いインフルエンザ」並になったといわれるようになりました。帰宅時には手指洗淨を、御法座では入室時にアルコール消毒を、多人数のご法座ならばマスク着用に心掛けて戴くことで段々安心の度合いが高まってきていると言えそうです。

記

6月5日(日)19時半 佛壮お聴聞の会

6月16日(木)19時半 佛婦例会

これからの一年を展望して

来る6月12日(日)午前十時には滋賀組定期総会が開催されますので正覚寺からは、総代長と住職が参加致します。正覚寺からの報告は、この一年間の「実績報告」と6月からの一年間の「行事計画」です。

実績報告は、正覚寺の基本方針と同行方針のご紹介です。

基本方針では、「阿弥陀様のご本願が成就した往相回向の働きでお浄土に往生された方々は、還相回向の働きで私の胸にお宿り下さり、今生の私をお育て下さるのです。されば、**帰命尽十方無碍光如来(きみょうじんじっぽうむげこうによらい)**(易しくは南無阿弥陀仏)と称えれば直ちにお浄土から聞こえて下さる本願招還の勅命に喚び覚まされつつ二河白道を歩ませて戴きます。」という浄土真宗のお法りを端的に謳っております。

それに続く、同行(どうぎょう)方針では、「第一に、お聴聞を通じて、和やかなコミュニ

ティを実現します。」として、一つには、

お聴聞は三昧(ざんまい)を実践し、二つには、ウェブサイト正覚寺で人々の繋がりに貢献します、と明確化しました。

「第二に、子供たちを育む他のダーナ(布施)を実践します」では、令和四年上期に、全日本仏教会及び本願寺社会部を通じてウクライナ支援を行わせて戴きました。

「第三に、宗門のリスクと機会に取組みます」では、伝道最前線の活性化、門徒推進員の誕生、伝道教学の鍛え上げと見える化を謳いあげました。とは、他組への「親鸞聖人讃仰布教大会」、「老人福祉施設への訪問布教」への出講他ですから、住職が専権的に関わる義務がありますが、は、総代様方の自主のお取り組みにお待ちしなくてはなりません。「リスクと機会」は、ISOの用語ですが、五月三十日八幡別院で開催された布教団総会では、「課題と可能性」の次元で分かり易く表現されました。

6月から一年間の行事計画のうち、目玉となるのは、令和五年五月二十日(土)に予定させて戴く「宗祖御生誕 850年・立教開宗 800年正覚寺記念法要」であります。

宗祖ご生誕法要に相応しく、降誕会(ごうたんえ)を日程と致しました。午前中は、記念法要に相応しく、お同行の皆様にお参り戴き、長年正覚寺にご縁を戴いている安堂 芳雅布教使にご出講戴き、皆様と一緒に浄土真宗のお法りをお慶び戴き、午後は、正覚寺恒例の降誕会を実施致します。合掌。